

タイムスリップ横丁の ウラガワをインタビュー

第58回秩父音頭まつりでは「地域内外の若者がつながり、地域を盛り上げる取組」をテーマに、3人の若者が地域おこし協力隊インターンとして参加しました。



写真左から蜂須賀 悠氏、
大瀧 俊介氏、三瓶 涼香氏

Q. どんな思いでインターンに応募したの？

A. 皆野町を訪れた際、多くのかたが気さくに声をかけてくださり、地域の人々の温かさに惹かれました。一方で、町で暮らす若者が少ないことも印象に残りました。そこで、インターンとして皆野町の中に入って若者を呼び込み、町を離れたかたが戻るきっかけを作りたいと考え応募しました。

Q. タイムスリップ横丁への思い

A. 「皆野町の人に喜んでもらう」ことを第一に考えました。懐かしい風景を再現し、世代や出身を問わず色々な人が交流し、楽しめる場にしたいと思いました。タイムスリップ横丁をきっかけに、町への愛着がより深まっていれば嬉しいです。



Q. まつりを終えて一言！

A. インターン生として秩父音頭まつりを迎えるにあたり、準備や当日の天候などたくさん不安がありました。悪天候の予報により、前々日から急ぎで準備内容を変更するなど対応に追われましたが、迎えた当日はまさかの快晴！笑
たくさんのかたにお越しいただき、皆さんの笑顔を見ることができました。
タイムスリップ横丁、壺春堂での活動を通じて皆野町に少しでも活力を届けられていたら、とても幸せです。また何かしらの形で皆野町に関われたら嬉しいです！

森林・林業職体験ツアー & 木工ワークショップ

地域の子どもたちに、森林と林業に対して関心を持ってもらうため、町と協定を締結している(株)ウッディーコイケとものつくり大学の連携のもと、森林・林業職体験ツアー&木工ワークショップを開催しました。

参加した小学生は「木は僕たちの暮らしに深く関わっているとわかったので、大切にしていきたいと思った」と話していました。



皆野町をはじめ秩父地域には、先人たちが未来を想って植えてきたスギやヒノキの森林があります。

一方で、所有者や境界が分からない山も増え、その森林を次の世代へつなぐことが難しくなっています。

今回のツアーでは、子どもたちが木に触れ、香りや音を感じながら、命をかけて働く林業作業員や木材に関わる人の仕事や想いを、五感を通して感じてくれたと思います。

ものつくり大学の学生の皆さんにもご協力いただき、こうした体験を今後も地域に根づかせていきたいと思っています。

(株)ウッディーコイケ 取締役副社長 小池 啓友



写真左から経営企画室室長の吉野氏、
取締役副社長の小池氏、山林部部長の山口氏